

# 第1回新潟市田園資源活用検討委員会

## 会 議 録

平成27年3月10日（火）午前10時30分開会  
会場 秋葉区役所401会議室

# 第1回新潟市田園資源活用検討委員会 会議録

日時 平成27年3月10日（火）

午前10時30分から

会場 秋葉区役所401会議室

■出席委員 立田委員、平野委員、本間委員、前田委員、山口委員、渡邊委員

■欠席委員 佐藤委員

■事務局 環境部環境政策課、農林水産部農業政策課、秋葉区産業振興課

## 1. 開会あいさつ（環境部長）

## 2. 委員各位のご紹介

## 3. 議題

### （1）新潟市田園資源活用検討委員会について

○事務局説明（省略）

### （2）①新潟市内の植物系バイオマス活用の取組みについて

○事務局説明（省略）

○質疑応答

（立田委員）

事例がたくさんあるんですけどね、儲かっているのはどのくらいあるんですか。私よく言うんですけども、いつまでも打ち上げ花火をしても駄目なんですよ。

（事務局）

この中の事例で、民間で取り組まれているものはコスト的にペイされているものと思っております。利用設備に対するイニシャルコストに補助金等が入っているかとは思いますが、それ以外の運用というところでは、市や国から補助金が入っているものではございませんので。

（渡邊座長）

事例2の「ほてる大橋」さんですが、ボイラーの灰を地元農家さんに販売されているようですが、具体的にどのくらいの値段で販売をされていて、農家さんとしては肥料効果としての優位性、そのあたりをどのように考えているのか、新潟市の見解がございましたらお聞かせいただきたいのですが。

(事務局)

灰の販売価格については、それほど高くはないとのこと。

(渡邊座長)

肥料効果としても農家さんに好評いただいていたたり、或いは何か問題点等指摘されていたりするようであれば教えてください。

(事務局)

特にそのような問題点等の指摘はありませんし、農家さんに好評を得ているという風に聞いております。西蒲区にある農業大学校の方にも灰を使ってもらっているという風に聞いておりますので、大丈夫だと思います。

(立田委員)

BDF、これは続けるんですか。射水市はこんなの止めて、灯油に混ぜてボイラー燃料として売っています。BDF はペイしない。環境にも悪い。我々は授産施設で知的障がい者の人に処理していただいてマーケットから2、3円安く売っています。灯油に廃食系油を混ぜた分だけ安くなりますから。そっちにした方が、環境にも良いしペイすると思うんですけども。

例えば公用車にBDFを入れて、車が壊れても保証してくれないでしょう。ボイラーは保証してくれるんです。この際見直したらどうですか。

(事務局)

現在公用車として更新できるのはクリーンディーゼル車に限られており、こうした車両ではBDFが使えないということなので、ディーゼルエンジン車で使っているBDF使用量が年々落ちてきています。そうすると今後の使い道としては、立田先生がおっしゃったとおり、ボイラー燃料として廃油を活用して行こうと。今年度から清掃センターのボイラー燃料として、まずは使う予定です。

## (2) ②新津丘陵の間伐材ペレット活用について

### ○事務局説明(省略)

### ○質疑応答

(前田委員)

私の方から補足させていただいてよろしいですか。

ペレット製造で働いていただく障がい者に関しては、授産施設の施設外就労で3人。ペレットを年間100t製造するという目標でしたが、健常者と比べれば、当然効率が落ちるわけで、最初の年は30t、そのうち40t、50t、で今は昨年度実績で87tです。100tまでなかなか行きません。今年はなんとか100tをとっております。

ストーブを使わない時期も、一生懸命毎日製造すると、だいたい年間200日稼働します。1

日1t製造する能力は有るのですが、先ほど申しあげました通り効率は考えていないプラントでございますので、目標年間100tということです。

製品に関しては、園芸農家さんから約25%使っていただいております。あと卸業者さんに32%、後は一般ペレットストーブユーザーさん43%です。

(平野委員)

本間さんもペレットを使っておられる。新津園芸さんは100坪なので、どれくらい使っているのか。ペイしているから使っているんだよね。

(本間委員)

ズバリそのものを聞かれると、なかなか答えづらい。

この取り組みの最初は、前田さんのところでまだやってらっしゃらなくて、地元の間伐材を他市へ運んでペレットにして、また運送屋に頼んで取りに行ってもらって入れたので、非常に高かったです。

平野さんの答えになってないと思うんですけど、一応動かして花咲かして売ってますので、まあ今のところ大丈夫です。

## (2) ③平成25年度田園資源の活用に関する調査結果について

### ○事務局説明(省略)

### ○質疑応答

(立田委員)

非常に悲しいのは、籾殻をね、木質系バイオマスとかと同列に考えていらっしゃる。ここにも書いてある、籾殻は大量に発生する燃焼灰の処理に課題が残るものって。今からこれが高いお金で売れるんですよ。これは課題でも何でもないんです。それを同じように考えている。で、それでコスト計算しても話にならないですね。この4月から法改正により、普通肥料として売れるようになるんです。だからダイヤモンドであるのにダイヤモンドとして見ていらっしゃらないというのは非常に悲しいですよ。

(事務局)

処理という表現を使ってしまったのは不適切だったと思います。私ども立田先生の射水市の視察をさせていただいた中で、そういった資源が農地に肥料として、肥料にならなくても土壌改良材として還元できるというお話を伺っております。ただその過程の筋道がまだ我々構築できておりません。この委員会での議論で、価値がある物としてどうやって流通させていくか、できれば農地に還元したいと考えていますから、このスキームをどう作っていくかというところが、大事になると思っています。そういうところを示唆させていただいたつもりで、この表現を使わせていただいております。灰が価値の無い物だという意味ではございません。価値あ

る物として活用していく方法を一緒に考えていかないと、やはり籾殻の活用はうまく進まないということをご提示したかった部分でございます。

(立田委員)

それには大前提があって、ペレット化したら駄目なんです。(ペレット化すると燃焼灰が結晶化し可溶性ケイ酸成分が少なくなるため用途が無くなり) 廃棄物にしかならない。無結晶のままにしなければ駄目なんです。それを皆さんに知っていただきたいだけです。このままだと、いつまでたっても使えない物になってしまうんです。

(事務局)

加工の仕方については、ペレット化とか無加工とか選択肢は、一応検討の材料としては、やって良いのかなと意味合いでございます。

(立田委員)

私が言いたいのは、ペレット化しなかったらジオポリマーという全く新しいコンクリートを作れる時代なんです。その資材になるんです。そういう風に加えて提示しなければ駄目かなと思います。

(事務局)

ご見識ある立田先生から、そう言ったところをご提示いただいて、委員会でご議論いただいで行こうという事で、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(立田委員)

私の経験からペレット化しない事です。以上です。

### (3) 今後のスケジュールについて

#### ○事務局説明(省略)

#### ○質疑応答

(平野委員)

先ほどの立田先生の説明から、籾殻ペレットは考えない事にして、第4回の会議のもみ殻ペレットビニルハウスのモニター事業はやめましょう。

(事務局)

第4回までのご議論をふまえて、モニター事業をどういう形態の燃料で行うかというのは、いったんゼロから検討させていただきたいと思ひます。

## 4. 連絡事項

## 5. 閉会